



■新年のご挨拶 ■香川県森林組合連合会 ■全国森林組合連合会
■トピック ■森林組合長会議開催 ■平成18年度森林組合担当者会開催 ■平成18年度林業労働安全衛生・林業雇用研修会開催 ■間伐・架線集材実施報告

県森連第五十七回 通常総会開催

去る五月三十一日、本会二階会議室において、篠原香川県議会議長(議長代理)、青山香川県環境森林部長、高木みどり整備課長、横山香川県森林管理事務所長、樋口香川県木材協会長、中島全国森林組合連合会保険センター課長をはじめ多くの来賓の方々のご臨席のもと第五十七回通常総会が開催された。

挨拶の中で、真部会長は、厳しい林業情勢が続く中、環境面から森林の公益性についての重要性が認識され、特に地球温暖化防止について森林整備が期待されている。「京都議定書」による二酸化炭素吸収を確実に進めるため森林資源循環事業の推進に努めたいと決意を述べた。

十八年度では、指定管理者として満濃池森林公園の適正管理、県下単一森林組合の実現に向けて組合長会議等で検討を重ね、また間伐材の利用促進について県産材利用をかけた努力した。さらには森林整備をなう中核的な林業技術者の育成を目的に「緑の雇用担い手育成対策事業」を継続して実施した。

十九年度では、指定管理者として満濃池森林公園の適正管理、間伐促進のための県産材利用、「緑の雇用担い手育成対策事業」を実施



する計画であるので、会員各位、国、県、市町並びに関係者各位の絶大なるご理解とご協力、ご支援を願い、議案審議のご協力を依頼した。



続いて、ご来賓の方々からのご祝辞をいただき、その後、4名の表彰を行った。なお、表彰者の方々は次のとおり。(敬称略)

優良役員

高木 互(香川東部森林組合)

優良職員

阿旗 優明(香川東部森林組合)、

三野 和哉(香川西部森林組合)

優良作業班員

古川 安雄(香川東部森林組合)

議事については、議長に木村香川東部森林組合長が選出され、提出十一議案すべて可決承認された。



森林組合役員・職員研修会

三月十九日(月)本会二階会議室に於いて、県下森林組合の役員・職員を対象に、



全国森林組合連合会の荒井主席監査士を講師に迎え、今回の森林組合法改正にかかる定款の変更等について研修を行った。

香川県 「香川県森林再生方針」 策定!

香川県は、木材価格の低迷などから、林業という経済活動を通じた森林の整備を進めることが困難になり、森林所有者の整備意欲が減退し、間伐の遅れや竹林の拡大が見られるなど森林の荒廃が進んでいる現状の中で、今後の森林整備は、森林所有者自らが行う林業生産活動の支援から、公益的機能の維持という観点を重視して進めることとし、山地災害防止、水源涵養の観点か

ら優先的に整備を進める区域(優先区域)を選定し、区域内の荒廃している森林を『再生森林』と位置付け、重点的・効率的に整備を進める『香川県森林再生方針』を策定した。

優先区域(百五十五区域)

① 山地災害防止の観点から、台風災害の崩壊地で緊急に整備が必要な六十四区域、保全対象から見ても緊急度・重要度の高い五十一区域の百十五区域。

② 水源涵養の観点から、主要ダム等の水源の上流域森林二十区域、各市町の水道水源等の上流域森林二十区域の四十区域。

再生森林(五千三百七十六ヘクタール)
(1) 山地災害防止(五百九十六ヘクタール)
(2) 水源涵養(四千七百八十ヘクタール)

優先区域内の再生森林の整備を重点的・効率的に進めるための対策

- ① 治山事業の優先実施
- ② 造林補助事業を行政の関与を強化して、優先的に実施
- ③ 条例、協定等による整備における関係者の役割の明確化の検討
- ④ 新たな整備の受益と負担のあり方とこれに要する経費の検討
- ⑤ 計画段階から、流域毎の森林整備のための協議会の開催など、関係者が連携した計画的な整備を進めるための仕組みづくり
- ⑥ 5年間の実施機関
- ⑦ 5年後に見直す予定ではあるが、災害等の発生、整備の進捗状況等により、必要に応じて優先区域や整備手法等を見直す

「もしも」の 事故を最小限に 抑えるために

万一の事故はいつも突然降りかかってくる。

ご承知のとおり、頭部を守るといふのは最も切実な問題です。頭を守る用具は、一般にヘルメットまたは安全帽と云います。保護帽は、外から加わる衝撃を吸収して頭部を護ります。衝撃を吸収する

ために、帽体が割れたり凹んだりします。また、内装が伸びて衝撃を吸収する部分もあります。加わる衝撃力の大部分は保護帽で吸収され、残りが脳や首の骨を通じてからだに伝わってゆきます。いくら保護帽が丈夫でも、首の骨が耐えきれなければ意味がありません。保護帽の役割には、おのずから限界があるのです。その限界を広げてくれたのが、ライナーというものです。普通は発泡スチロールでできており、これを帽体の内側に貼り付ける（だからライナーという）と、約1.5倍、衝撃吸収性が向上することがわかりました。

また最近、眼の事故の多い現場では、フェイスシールド付きヘルメットが喜ばれるようになりました。保護帽の中に装置を付けてフェイスシールドを出し入れできるものや、クリップによる帽体の外側への取り付け式のものがあります。耐用年数を過ぎたものや一度でも衝撃を受けたものは外観に異常がなくても性能が低下します。

ご相談は業務課・購買まで



平成19年7月20日

丸亀市本島町の保育事業について



満濃事業所は、松くい虫地上散布事業等、防除事業が終わり、一息つく暇もなく、No2 離島振興保育事業に取りかかりました。現場は、丸亀市の本島にあり、下刈りを2回刈りする施行地があるほど、草・かずら等が生い茂っています。

*かなり厳しい作業になると推測します。毎年、暑い夏の大仕事（保育事業）が始まるといつも思うこと、作業現場が終わる頃には、作業員みんなが日本人に思えなくなるほど日焼けして疲れ果てて帰って来るのを見ていました。

今年も、昨年にくらべ雨の日が多いこともあり、作業員の中には日焼けはあるものの、ばてている人もまだ見えませんし、作業も順調に進んでいます。

また、暑さ対策としてサマータイムを取入れ、作業の効率性を高め、作業員の安全・体調に気をつけています。

まだ始まったばかり、これから今以上に暑くなると思われるので、作業員の安全管理と工程管理に注意し、作業員とともに作業効率向上に努力していきます。

*最後に作業員の皆様、早朝からの下刈作業、本当にご苦労様です。

県森連 新池谷



コンサルタント室だより

現在コンサルタント室では、香川県東部林業事務所より平成19年度No5東部治山（森林整備）測量調査業務を受注し、連日測量調査を進めている。

この業務は、保安林の公益的機能の高度発揮のため、指摘された箇所について、簡易山腹平面測量及び立木調査を行い、箇所ごとに本数調整伐及び除伐における適正な伐採本数を把握するというものである。

作業は、夏の暑い時期で、約80haの面積におよび、伐開に多くの労力を必要とし、作業員と共に体力の限界に挑戦している。

種別ごとの面積は下表のとおりである。

種別	面積 (ha)
本数調整伐	17.10
除伐	62.05
部分補植	0.50
計	79.65

21世紀の森林経営をサポート

明日にふくらむ大きな安心。

森林国営保険

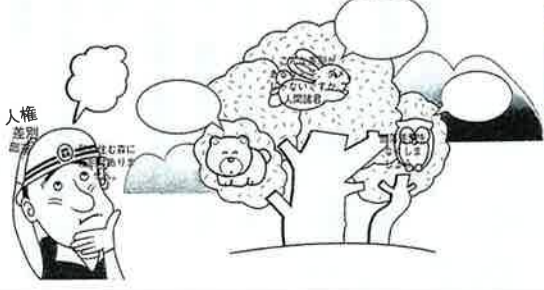
お問合せは
森林組合
香川県森林組合連合会
香川県

雪害 大雪積雪による幹折れ、根返りなどの損害	干害 乾燥による枯死などの損害	凍害 凍結、寒風などによる枯死などの損害	潮害 潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害	噴火災 火災噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害
火災 山火事で受けた損害	風害 暴風による幹折れ、根返りなどの損害	水害 豪雨、洪水による埋没、水没などの被害		

人権問題の啓発推進に取り組むこととなる基本事項

人権問題の取組に当たっては、女性、子ども、高齢者、障害者、同和問題、アイヌの人々、外国人、HIV感染者等、刑を終えて出所した人などへの偏見や差別を除去する等を内容とする国民行動計画の趣旨を踏まえ、それぞれの分野において自らの問題として積極的な役割の発揮に努めること。

特に、同和問題の早期解決は人権問題の重要な柱であることに留意すること。



森林組合系統組織を挙げて 取り組もう人権問題